

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

交流人口増加に向けた、みんなに愛されみんなとつながる動物園再整備事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

長野県小諸市

3 地域再生計画の区域

長野県小諸市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

【小諸市全体の主な構造的な課題】

2021年度から「こもろ観光局」と連携し、様々な媒体で情報発信し、知名度の向上に力を入れてきた。それにより、コロナ禍にも関わらず来訪者が増加することを実証できた（※1）ため、メディア拡散を続けていく必要がある。しかし、市内への来訪者が毎年減少傾向である（※2）。観光動線となっている観光拠点が点在しており、この地域に未活用の資源が多数存在しているが、老朽化により魅力が失われている状態などの構造的な課題を抱えている。

今後のさらなる飛躍のために解決すべき課題を次のとおり整理した。

※1 観光地利用者統計調査結果_懐古園利用者（無料利用者含む） 2020_23万人⇒2021_40万人

※2 同調査結果 2002_80万人⇒2022_55万人

①知名度の低下

小諸市は、かつては島崎藤村をはじめとする文豪の存在などから、全国的に知名度が高かった。しかし、株式会社ブランド総合研究所が実施した「地域ブランド調査 市区町村魅力度ランキング 2023」では、近隣の軽井沢町が12位にランクされているのに対し、小諸市はランク外となっている。

また、佐久広域連合が実施した佐久広域エリア観光意向調査（2012年実施）では、懐古園の認知度が50代以上の者は50%以上であるのに対して、40代以下は40%を上限に年代が下がるごとに低下し、20代は20%代と観光拠点としての将来が危惧される状況である。

②観光客の減少

当市は、多くの地域資源を有し、かつては島崎藤村をはじめとする小諸にゆかりのある文豪家の存在などから、「小諸」の地名が全国に知れ渡っており、「小諸城址・懐古園」を代表とした日本でも有数の観光地であった。長野県が実施する2002年観光地利用者統計調査結果では小諸市観光地利用者数は年間185万人となっている。しかし、近年では、同調査の2022年小諸市観光地利用者数が137万人程度となっている。

小諸市の観光の中心である「小諸城址・懐古園」の有料入園者数も、1997年以前までは年間40万人を超えていたが、それ以降コロナ禍もあいまって減少の一途をたどり、2022年には18.5万人まで減少した。この要因の一つとして、若年層の誘客の乏しさが挙げられる。2019年度に実施した交通社会実験での観光バス及び市街地周遊スマートカートの利用者調査によると、30代以下の利用者は30%程度に留まっている。

③豊富な地域資源の未活用、老朽化

小諸市は、日本100名城や日本さくら名所100選にも選定されるなど、豊富な地域資源を有している。しかし、その管理が不十分で、豊富な地域資源が活かしきれていない。また、施設の老朽化や動物の高齢化など、様々な課題に直面している。また、地域資源に関する市独自の認定制度である「小諸市ふるさと遺産」があるが、105件の登録に対し、活用されているものは20%程度に留まっている（なお、動物園もふるさと遺産に認定されている。）。

【観光拠点である小諸城址・懐古園（動物園）の課題】

小諸城址・懐古園の一角に位置する動物園は、国内で5番目に古く、小さい動物園ならではの手作り解説パネルの設置や、飼育員が来園者と動物に寄り添ったふれあい体験等のイベントが、長年にわたり地域住民をはじめ観光客にも愛されてきた。

そのノウハウを更に活かし入園者を増やすためには、狭い敷地を有効活用しながら、変化に富んだ展示パドックや動物の生態や行動の特徴が発揮できる仕掛け作り、その様子が間近に観察できるビューポイントの設置が必要である。

しかしながら、ふれあえる動物獣舎が点在し、利便性と管理運営の効率が悪い上、施設の老朽化や動物の高齢化、動物福祉に考慮した獣舎の改修など様々な課題に直面しており、認知度の低さも伴って入園者数及び入園料収入が減少している。

4－2 地方創生として目指す将来像

【概要】

【小諸市全体の将来像】

「第2期小諸市まち・ひと・しごと総合戦略」は、「小諸市第5次基本構想・第11次基本計画」の理念の下で運用しており、「小諸市第5次基本構想・第11次基本計画」の中では『住みたい 行きたい 帰ってきたい まち 小諸』をめざすまちの姿に位置づけている。今後も持続可能な自治体であり続けるために、「健幸都市こもろ（小諸版ウェルネス・シティ）」をまちづくりのビジョンに据え、健康・福祉はもちろん、子育て・教育、環境、産業・交流、生活基盤、行政経営などあらゆる分野において健康・健全であることを目指している。

【観光分野における将来像】

小諸市は、かつて小諸城の城下町として北国街道沿いに形成され、北国街道を始めとしたいくつもの街道の結節点という立地条件を活かして、宿場町や商業都市として栄えたことから、中心部の街道沿いを始め、市内に数多くの歴史・伝統文化が残されている。また、浅間山、高峰高原、千曲川といった恵まれた自然環境や景観、高原野菜を始めとした盛んな農産物の生産など、バラエティーに富んだ観光資源を有している。これらは、単に観光資源であるだけでなく、「まちのアイデンティティ」を形成する重要な要素であり、多面的な価値を有する地域資源である。これらの地域資源を十二分に活用して、地域の魅力（ブランド）を確立するとともに、市内外へ訴求する。加えて、観光・交流人口の増加による観光業や各種サービス業の活性化、地元特産品の販路拡大による「農業・食品加工・流通販売」のいわゆる6次産業の活性化により、雇用の確保を図る。さらには、小諸に対する「郷土愛」を醸成することにより、移住のみならず定住の促進、定住人口の確保も図る。

これらのことを日本版DMOである「こもろ観光局」と連携して実施することで、住民にとっても観光交流客にとっても魅力ある、「住みたい 行きたい 帰ってきたい」地域を形成していくことを目指す。

【数値目標】

K P I ①	地域における観光消費額（１人当たり１回の旅行）						単位	円/人
K P I ②	小諸城址・懐古園の有料入園者数						単位	百人
K P I ③	観光地入込数						単位	万人
K P I ④	-						単位	-
	事業開始前 （現時点）	2024年度 増加分 （１年目）	2025年度 増加分 （２年目）	2026年度 増加分 （３年目）	2027年度 増加分 （４年目）	2028年度 増加分 （５年目）	K P I 増加分 の累計	
K P I ①	28,311.00	284.00	285.00	289.00	292.00	295.00	1,445.00	
K P I ②	1,855.00	0.00	0.00	148.40	18.60	20.20	187.20	
K P I ③	137.00	0.00	0.00	4.30	1.40	1.40	7.10	
K P I ④	-	-	-	-	-	-	-	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生拠点整備タイプ（内閣府）：【A3016】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

交流人口増加に向けた、みんなに愛されみんなとつながる動物園再整備事業

③ 事業の内容

2026年には小諸市動物園が開園100周年を迎える。この節目を機に、小諸市は、ターゲットとしている若年層やファミリー層への発信に「ふれあい」のテーマをより強調し、動物園を再整備することで、みんなに愛され、「また行きたい」と思ってもらえる魅力ある観光施設として再認識されることを目指す。これにより、動物園と一体となった小諸城址・懷古園への入園者数の増加をはじめ、交流人口の増加やまちの活性化を図るため、下記のとおり施設整備及び利活用を実施する。

課題①知名度の低下の解消（情報発信）

（１）ライブ配信やホームページの改修

小諸城址・懷古園の動物園では、動物たちの日常の様子をライブ配信することで、来園者への期待感を高める。また、小諸城址・懷古園の四季折々の風景をライブ配信することで、季節ごとの魅力を発信する。さらに、小諸市のホームページを魅力あるものに改修することで、市内観光スポットの情報をわかりやすく発信し、小諸の認知度を高める。これにより、小諸城址・懷古園だけでなく、市内各地の観光スポットへの来訪を促す。

（２）入園チケットのデジタル化及び観光・交通Eコマースアプリとの連携整備

小諸城址・懷古園の紙の入園券は、購入場所が限られる、取り扱いが煩雑であるなどの課題がある。そこで、小諸市が運営するLINE公式アカウント「信州こもろ・こま〜す（以下、eコマースアプリという）」で電子チケットを販売することで、入園者の利便性を向上させる。また、アプリでは小諸市内の店舗・観光スポットの情報や位置を検索できるほか、アプリ登録者へLINEを通じて情報を発信することができる。これにより、小諸城址・懷古園周辺に点在する歴史的建造物や駅前商店街への回遊性や再訪性を向上させる。

課題②観光客（来園者）増加に向けた観光拠点（動物園）整備

（１）新規動物の獣舎の整備

動物の生態や行動を引き出す環境づくりを行い、好奇心を刺激するような展示や、動物とのふれあい体験プログラムを増やすことで、来園者の興味関心を高める。また、ふれあい体験ができる動物獣舎をまとめることで、利便性や散策の効率性が向上され入園者の負担を軽減する。

（２）動物福祉にかなった獣舎の整備

動物の健康と快適性に配慮した設計・設備を導入することで、動物本来の習性や特性を引き出し動物の魅力を高める。

（３）くつろぎの場やトイレの整備

雨天時の一時避難場所や1日過ごせるくつろぎの場、清潔感あるトイレや授乳室の整備は、来園者の施設の利便性を高め、滞在時間延長と再来園促進につながる。

（４）園路や門扉の整備

緊急車両の通行確保やバリアフリー化した園路の整備により、子どもにも障害者にも安心安全な施設にすることで若年層やファミリー層の集客を目指す。

課題③豊富な地域資源の未活用、老朽化の解決

上記の施設整備により来園者が増加することで、その他の地域資源（観光地・既存店など）の利用も相乗的に増加することが期待される。当たり前の資源が魅力的な資源であると認識が変わることで、地域資源に関心の無かった市民の郷土愛が醸成されと考えられる。これにより、市民や民間企業を主体とした地域資源の有効活用につながる。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

本市の観光拠点である小諸城址・懷古園の一角にある動物園を整備することで、更なる動物園の魅力アップを図り、持続可能な施設運営、将来的には持続可能な観光地の拠点となり、日本版DMOこもろ観光局を中心としたプロモーションによるブランド力向上により、『稼げる観光地域づくり』を推進していく。

動物園では、具体的に以下の事業等で動物園の「ファン」を増やし、入園者及び入園料の増加やクラウドファンディングなどの自主財源を確保し、安定的な経営を継続していく。

- ・新規動物の導入や雨天時でも対応可能な動物とふれあう場づくりを行い、従来から人気のある動物とのふれあい体験を更に充実させ、体験会を増やす。
- ・園内で来園者がくつろげる場や快適で清潔な施設環境、物販機能を設けることで、ファミリー層の誘客を高める。
- ・小諸城址・懷古園の桜まつり又は紅葉まつり時にライトアップや夜の動物園「ナイトZOO」等のイベント開催。
- ・限定グッズなどを返礼品としたクラウドファンディングの実施や、企業版ふるさと納税、寄附などを募る。
- ・新規動物や人気動物のグッズの開発及び製作販売を行い収益を増やす。
- ・市民サポーター制度の導入における支援を通じて、飼育員の雇用創出や人材育成を生み出す。
- ・市内農家と連携を図り、動物の餌として活用できる野菜や果樹などを提供してもらう。

※小諸城址・懷古園の事業収入については別添の資料添付

【官民協働】

観光事業者をはじめとする様々な業種の団体や行政で組織された日本版DMO「こもろ観光局」が中心となって、行政だけでは取り組めなかった収益事業を行うことで、観光地域づくりの推進を図る。

【日本版DMOこもろ観光局の役割】

- ・小諸城址・懐古園を拠点とした市内バス事業者との「周遊観光バスツアー」の旅行商品開発や販売。
- ・小諸城址・懐古園から北国街道沿いの古い町並みを撮影地とした「ポートレート撮影講座」、甲冑を身にまとう被写体をも募集する「侍フォトフェスティバル」などの開催の実施。
- ・企業からの寄附や企業版ふるさと納税の応募を活用した市内事業者と動物園の土産品や記念品の商品開発、製作販売。

【民間事業者の役割】

- ・商工会議所等が独自で実施していた事業を地域全体で推進することや、こもろ観光局に会員として様々な事業者が参画することで行政だけでは取り組めなかった事業・計画に取り組む。
- ・小諸城址・懐古園から見えるまちタネ広場（都市公園）では、毎週末に企業や市民が主催するマルシェやフードマーケットなど、双方での誘客や回遊性を促し、市内事業所の売上向上を図る。

【市民との協働】

- 動物園サポーターを増やし、行政と共に動物園の魅力度向上や施設運営の一助となってもらい安定的な施設運営を行う。また、動物園の魅力度向上から隣接する小諸城址・懐古園全体の賑わいへとつなげる。
- ・「動物園を支える会」による動物園内清掃や環境整備。
 - ・SDGSの一環で荒廃地を開墾した土地で動物の餌用にソルガムを栽培し、収穫ボランティアを募って動物の餌づくり活動を実施。

【行政の役割】

- ・行政も一会員として観光局に参画し、こもろ観光局が推進する観光地域づくりの実施内容を、行政が行う観光政策や各種計画に反映させ、事業の推進を支援する。
- ・行政が保有する情報を常に観光局をはじめ民間事業者を会員にもつ商工会議所と共有し、行政の事業だけではなく地域全体の取り組みについて情報発信するとともに、事業の推進を支援する。

【その他連携者】

- ・行政が委嘱する2名の「政策アドバイザー」から専門見地、業務経験、先進事例からアドバイスを受けて観光地域づくりや観光事業の活性化の推進を図る。

【地域間連携】

小諸城址・懐古園（動物園）は、今でも年間18.5万人が訪れる観光拠点である。この観光拠点を中心として、以下の連携を実施することで、地域間の地方創生に結びつけている。近隣地域にはない動物園と遊園地は、子どもから大人までが楽しめる唯一の観光コンテンツであるため、広域で観光プロモーションを行いながら、交流人口の増及び観光滞在時間を増加させる。

【小諸市・軽井沢町・御代田町（三市町）】

国際的観光都市「軽井沢町」と、既に様々な政策分野で連携を図る仕組みとして「三市町共同事業検討会」が構築され観光事業について検討会議や観光PR事業を実施。

- ・北陸新幹線延伸に伴い北陸、関西方面に観光パンフレットの配布、特産物の販売を2回。
- ・観光客入込の多い関東圏に引き続き8月と3月の年2回、地元銀行の支店に観光パンフレットや特産物の展示。
- ・関越自動車道のSAで観光パンフレットや観光施設の優待券の配布。

【浅間山麓広域観光推進協議会（小諸市・東御市・御代田町・軽井沢町・長野原町・嬬恋村）】

群馬県の町村を含めた浅間山周辺の市町村で協議会を構成し観光事業について検討会議や観光PR事業を実施。

- ・軽井沢駅で観光パンフレットや観光施設の優待券の配布。（年1回）
- ・浅間山麓で行われるサイクリングイベントの開催。
- ・協議会独自のホームページを立ち上げ、観光情報を発信する。

【信州千曲川ワインバレー東地区（小諸市・東御市・上田市・佐久市・千曲市など）】

長野県東信地域のしなの鉄道沿線市町村では、従来からワイン振興が盛んで、イベントの開催や観光誘客、6次産業の推進を実施。

- ・ワイナリーの広域的なパンフレットの作成やしなの鉄道の協力のもと沿線でのイベント同時開催を実施。
- ・台湾へ訪問しインバウンド観光誘客を連携して実施。
- ・隣接する東御市の海野宿とは、北国街道を繋ぐ宿場町としてレンタサイクルコースを企画し連携した広域観光を行う。

【政策・施策間連携】

小諸城址・懷古園（動物園）は今でも年間18.5万人が訪れる観光拠点である。この観光拠点を中心として、以下の連携を実施することで、地方創生に結びつけている。

【文化振興】

インバウンドを含めた誘客のために、島崎藤村が小諸城址・懷古園で弓を引いたとのゆえんから歴史と文化を肌で感じられる「弓道体験」を絡めた観光商品を販売する。これに加え、日本版DMOこもろ観光局を中心に、小諸城址・懷古園（動物園）を観光拠点にした自然、歴史、文化、食を含めたオリジナル旅行商品の開発をする。

【公共交通】

本市が官民連携による多極ネットワーク型コンパクトシティで導入したeコマースアプリで、小諸城址・懷古園（動物園）からカートやデマンドタクシー、バスを利用することで中心市街地や移動困難な観光スポットへ誘導する。また、前述のカート等のチケット購入や呼び出し機能を利用し、市内での滞在時間の延長と観光消費の拡大を目指す。更に、一度訪れた観光客に観光情報を発信するなど、これらを行うことで観光客の快適な旅路を提供する「来て楽しい」「また行きたい」となる再来訪の効果を生み出す。

【子育て支援・教育】

市内外からの幼児から小学生等が動物園に訪れ、動物に触れあう機会を提供するとともに、夜の動物園や子どもたちの校外学習の受入れ（校外学習では、2018年度から5年間で325校、17,600人を受入れ）から、引き続き動物との共存や、自然環境の保全、動物愛護の普及啓発などを学ぶ機会を創出する。

あわせて、本市にある長野県唯一の動物愛護センターとの連携を図り、出張動物園などタイアップ企画で新たな入園者につなげる。

【デジタル社会の形成への寄与】

内容①

動物等ライブ映像配信設備

理由①

小諸城址・懷古園や動物園に行く前の興味を高め、桜の開花や紅葉の風景、来訪時に見れなかった動物の様子などを配信することで、再来訪のきっかけとなる。また、世界に映像をライブ配信することで、小諸城址・懷古園や動物園、更には小諸の認知度を高め、訪日旅行につながることが期待できる。

内容②

ホームページの再構築

理由②

リニューアルした施設や新規に導入した動物を画像や動画を入れ見やすく紹介することで、興味を湧かせ来訪やふるさと納税、ボランティアのきっかけにつなげる。また、園内マップのQRコードを掲載し、利便性の向上を図る。

取組③

入園チケットのデジタル化及び観光・交通 e コマースアプリとの連携整備

理由③

e コマースアプリでの電子チケット購入機能を導入することにより、入園者の利便性の向上を図る。また、同アプリは、小諸市内の店舗・観光スポットの情報や位置を検索することも可能なため、来訪者の回遊性の向上が期待できる。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））

4－2 の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証時期】

毎年度 8 月

【検証方法】

外部有識者で構成する総合計画審議会において、出納閉鎖後から決算議会までの間（6～8月）にPDCAサイクルによる検証を行う。結果については、市公式ホームページへの掲載により公表する。

【外部組織の参画者】

【産】・商工会議所副会頭 ・（一社）こもろ観光局役員 【学】小諸高校校長 【官】・教育委員会教育委員 ・農業委員会会長 【金】八十二銀行小諸支店長 【労】連合長野佐久地域協議会役員 【言】株式会社コミュニティテレビこもろキャスター

【検証結果の公表の方法】

市公式ホームページに掲載

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3016】
総事業費 366,286 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から 2029 年 3 月 31 日 まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 動物えさやり体験・ふれあい体験

ア 事業概要

動物にぬくもりや「生きている命」の大切さを感じ、動物愛護を目的とした子供向けの事業

【内容】

毎週土日・祝日

- ・ モルモットや家畜動物（ヤギ・ポニー・ヒツジ）に餌やりをする。
- ・ モルモットやパンダマウスとふれあい体験
- その他、特別企画として季節ごとに動物とイベントも開催。

イ 事業実施主体

長野県小諸市

ウ 事業実施期間

2026 年 4 月 1 日から 2029 年 3 月 31 日 まで

(2) 小諸市動物園第2期整備事業クラウドファンディング

ア 事業概要

動物園第2期再整備事業に伴って、これからもみんなに愛され地域の誇りとなる動物園として次世代に継承していくためにクラウドファンディングを実施。クラウドファンディングをしていただいた方には、記念品贈呈等を計画中。

イ 事業実施主体

長野県小諸市

ウ 事業実施期間

2024 年 4 月 1 日から 2029 年 3 月 31 日 まで

(3) 秋あかり小諸

ア 事業概要

小諸城址・懷古園の紅葉まつりに訪れた観光客や地元住民に、ナイトタイムの新しい小諸の魅力を楽しんでもらうことで、中心市街地への回遊性や滞在時間の延長、観光消費額の増を目的に開催。

【内容】

小諸かるたの絵札・読み句を描いた灯ろうを小諸城址・懷古園の玄関口である三の門から中心市街地へ続く歩道や駅周辺の公園に100基設置し16時～22時まで燈す。初日、点灯式には市内事業者の飲食などの出店。事業者間の交流会も開催し、観光・商業を盛上げる気運を高め事業者間の連携を図る。

イ 事業実施主体

長野県小諸商工会議所、長野県小諸市

ウ 事業実施期間

2024 年 4 月 1 日から 2029 年 3 月 31 日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2029 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、5-2の⑥の【検証時期】に7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。